

# 神奈川県庁におけるEBPM推進の取組み

(政策レビューにおけるEBPMの考え方の導入)

総合政策課

平成31年1月29日

# 県における政策運営

- 総合計画「かながわグランドデザイン」において、プロジェクトごとに複数の数値目標を設定し、毎年度の評価において、統計指標を活用した多角的な分析を行い、政策改善を図ってきた。
- これまでもできる限り統計データなど客観的な指標を活用した政策運営に努めてきた。



# 参考 かながわグランドデザイン (プロジェクト1 未病)

かながわグランドデザイン | 健康長寿プロジェクト1 未病

## I

健康長寿

プロジェクト  
**1** 未病

～健康寿命を延伸し、生き生きとらせる神奈川をめざして～

プロジェクトのねらい

- ▶ 健康で生き生きと生活できる社会環境づくり
- ▶ 未病を治すためのライフスタイルの見直し
- ▶ こころの未病を治す



**ME-BYO®**

超高齢社会が到来する中で、子どもから高齢者まで誰もが健康で生き生きとらせるしくみづくりが求められています。

そこで、「未病を治すかながわ宣言」(平成26年1月)に基づき未病センターの整備など社会環境づくりを進めるとともに食(医食農同源)や運動、社会参加(交流)などの取組み、キャラクターや商標を用いた普及などを通じ、県民のライフスタイルの見直しを進め健康寿命の延伸を図ります。

また、うつ病や自殺に至らないようメンタルヘルス対策など「こころの未病」を治す取組みのほか健康情報の活用による健康行動を促進する取組みを進めます。

注: 未病については、P77図1-15(注)を参照してください。

**具体的な取組み**

**A 未病を治す取組みを支える社会環境の整備**

- 超高齢社会を乗り越え、健康でいつまでも生き生きとすることのできる神奈川を実現するため、身近な場所で未病を治す取組みを実施できる未病センターの整備など、個人のライフスタイルの見直しを支える環境づくりを中核とし、企業、団体などと連携して推進します。
- 県内各地の資源を活用し、未病を治すため、未病いやしへの里づくりなどの取組みを推進します。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
身近な場所で「未病を治す」取組みが実施できる場、人材など環境づくり 実施主体   県、市町村、民間				
高齢地域活性化プロジェクトによる未病の取組み 実施主体   県、市町村、民間				

**B 未病を治すために重要な、食、運動、社会参加など生活習慣改善の支援**

- 「食」の取組みを実施できるよう、食習慣改善に向けた食生活改善、食育の普及啓発や4020運動の推進による食中摂取の健康づくりなどに取組みます。
- 「運動」を実施できるよう、子どもの頃から運動やスポーツの習慣化をめざす3033運動の普及・推進などに取組みます。
- 「社会参加」(交流)を実施できるよう、高齢者の生きがいや貢献づくりなどに取組みます。
- こころの未病を治す取組みとして、メンタル室での悩みを聴きあえる人への相談支援、うつ病や自殺を予防するための人材育成や普及啓発、地域におけるかかりつけ医と精神科医との連携強化に取り組めます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
医食農同源や食育など食生活の改善に向けた取組み 実施主体   県、市町村、民間				
3033 運動の普及・推進など運動やスポーツの習慣化をめざす取組み 実施主体   県、市町村、民間				
社会参加の促進による生きがいづくりの取組み 実施主体   県、市町村、民間				
メンタルヘルス対策、うつ病対策、自殺予防対策などの取組み 実施主体   県、市町村、民間				

**C 健康情報の活用による効果的な施策の推進**

- 自らの健康データの活用促進や、ビッグデータの有効活用により、健康情報プラットフォーム®の構築や未病の科学的な研究を進め、CHD(健康管理推進責任者)構築の推進など、個人の健康行動を促進する取組みを行います。

※取組に要する情報や管理、その手段は利用する者による

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
健康情報の有効活用の促進や、データに基づく効果的な施策の取組み 実施主体   県、市町村、民間				

かながわグランドデザイン | 健康長寿プロジェクト1 未病

12

13

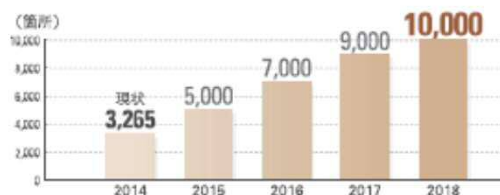
# 参考 かながわグランドデザイン(数値目標)

プロジェクト

## 1 未病

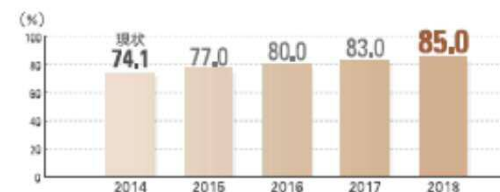
### 1 「未病センター」設置数、「未病を治すかながわ宣言 協力活動」への登録事業所数(累計)(健康増進課調査)

健康寿命を延伸し、県民が生き生きと健康的な生活を送るためには、県民が身近な場所で「未病を治す」重要性を知り、また、取組みを実践できる必要があります。そこで、企業や団体などの協力により、身近な場所での「未病を治す」環境づくりを進めるため、10,000箇所以上(累計)の「未病センター」の設置や登録事業所数をめざすことを目標としています。



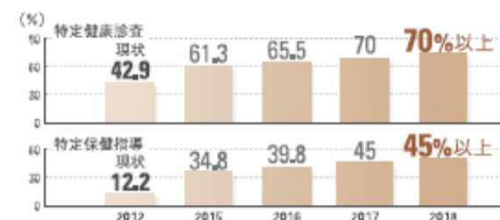
### 2 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人の割合(県民ニーズ調査)

健康寿命を延伸し、県民が生き生きと健康的な生活を送るためには、日ごろから健康に気をつけ、規則正しい生活の取組みが重要です。そこで、食生活習慣の改善に向けた普及啓発など病気にならない取組みを進めることにより、「日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人」の割合を2018年に85%とすることを目標としています。



### 3 特定健康診査・特定保健指導の実施率(厚生労働省調査)

健康寿命を延伸し、県民が生き生きと健康的な生活を送るためには、生活習慣病の要因となる生活習慣の早期改善につなげる特定健診などの実施率を向上させる必要があります。そこで、保険者が算出した特定健診などの実施率について、特定健康診査70%以上、特定保健指導45%以上を目標としています。



# EBPMの推進

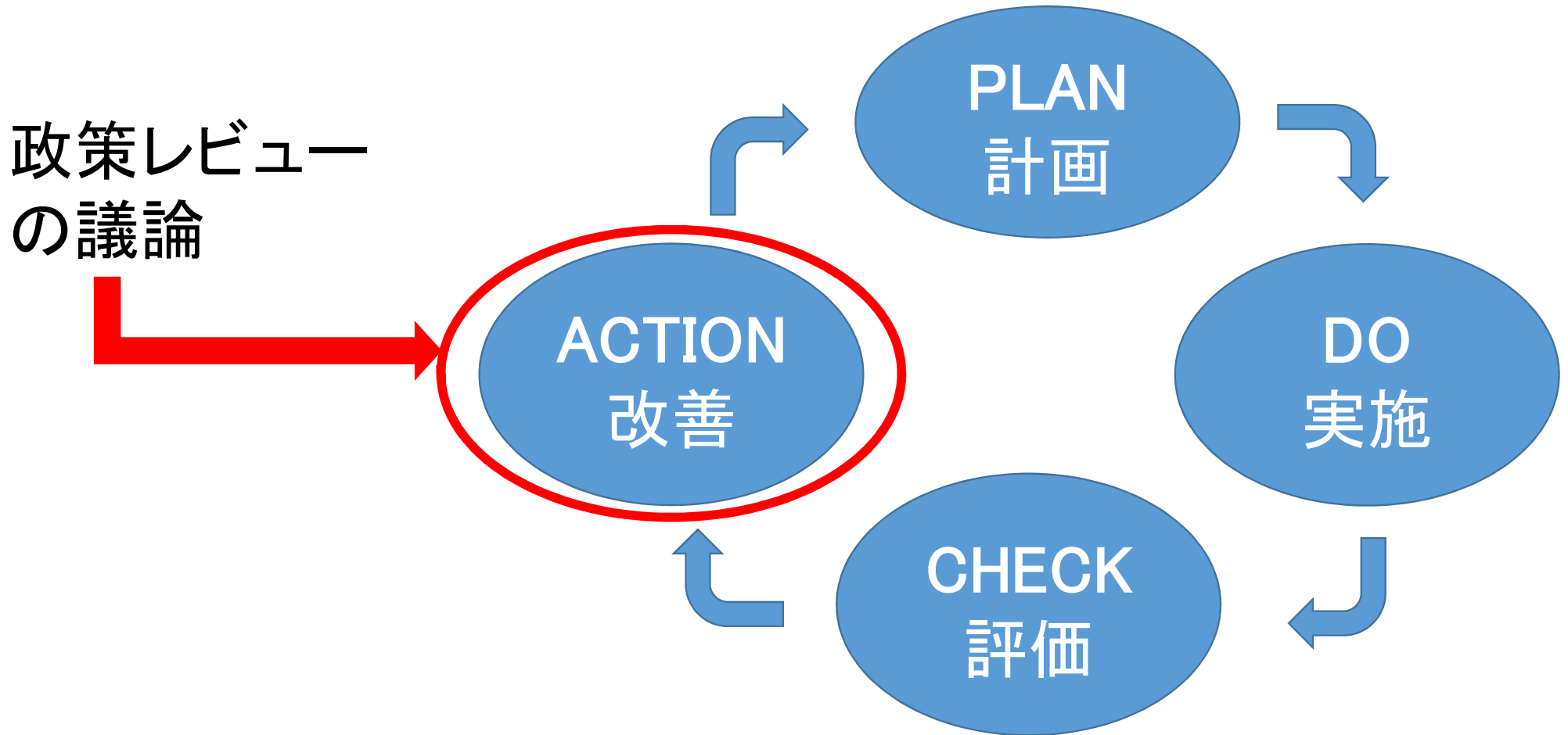
- 限られた予算・資源のもとで政策効果を最大限発揮させるため、証拠に基づいて合理的に政策判断を行うEBPMの推進が求められている。
  - ▶ 政策の立案時において、ロジック・モデルにより政策と成果の因果関係を論理的に明示
  - ▶ 客観的・科学的データによる裏付けを示す

# 政策レビューへの導入

EBPMの推進にあたっては、まずは、政策の検討にあたり、取り組みと成果の因果関係について意識を持つことが重要と考え、政策レビュー(庁内における政策議論)において、できるだけ取り組みと成果の因果関係を明らかにするよう取り組んだ。

政策レビュー:政策のマネジメント・サイクルの一環(ACTION(改善))として、政策の優先度を見極めながら政策改善の方向性を議論し、政策立案を行う場

# 政策のマネジメント・サイクル



# 政策レビューへの導入

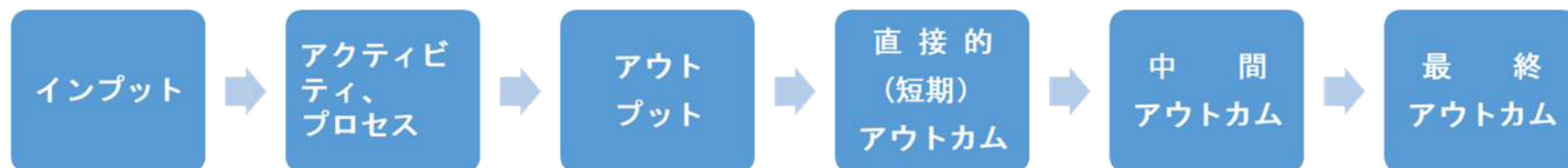
- 「政策目的—政策手段(施策)—事業」から成る政策体系(ロジック・モデル)と、それらの間にある因果関係を明確化
- 統計データ等を活用し、政策課題や施策・事業目的を適切に設定
- その施策事業は最適な手段であるか、客観的なエビデンスに基づき選択・決定



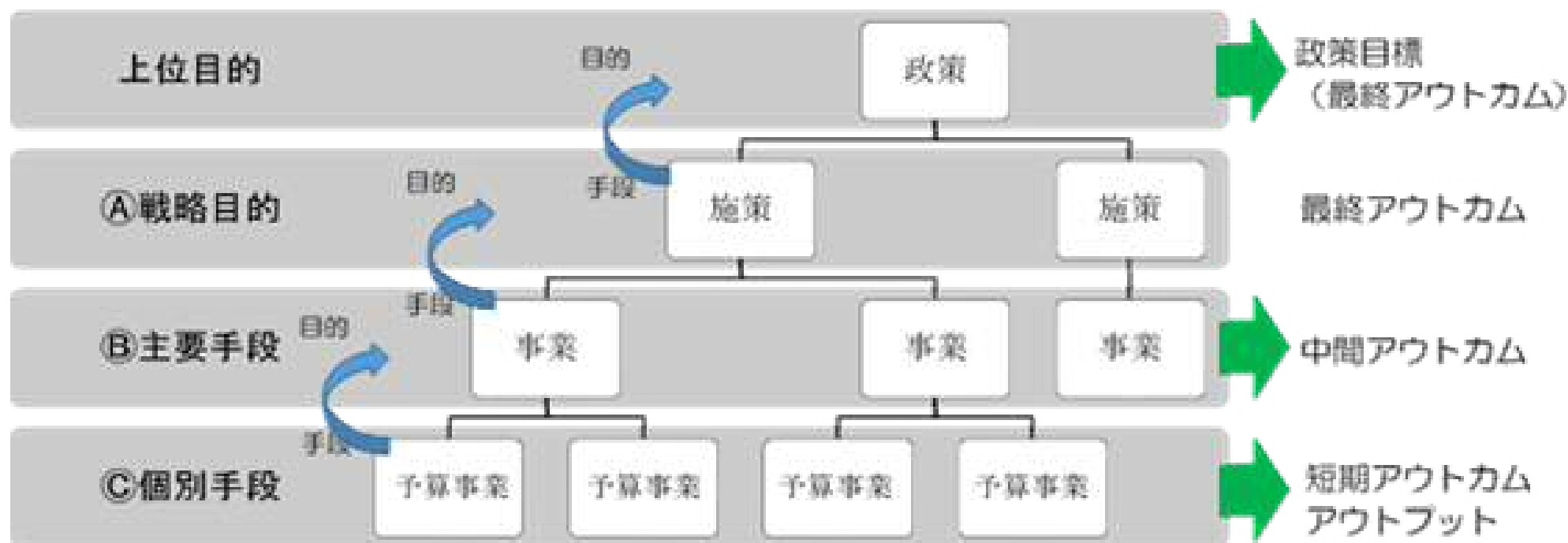
# ロジック・モデル

行政資源の投入（インプット）、行政の活動とその過程（アクティビティ、プロセス）、活動によって提供される財・サービス（アウトプット）、直接的に発生する成果（直接的アウトカム）、論理的帰結・時間経過・波及などによって中間的に実現する成果（中間アウトカム）、最終的に発現すべき成果（最終アウトカム）の間には明示的に示し得る因果関係があるはずとして、これらを流れ図や表の形で表したものの。

（総務省「政策評価に関する基礎資料」平成28年10月）



# 政策体系図



# 政策レビュー調書等の構成

- 「㊤戦略目的」の調書: 「めざす姿」やその達成を測定するためのアウトカム指標(測定指標)、達成に向けた取組み(主要手段)を記載
- 「㊦主要手段」の調書: 中間アウトカム、課題解決に向けた施策の必要性、有効性などを記載。主要手段を構成する個別手段(予算事業)が中間アウトカムの達成にどのように寄与するかを明示
- 「㊧個別手段」の調書: 個別手段(予算事業)のアウトプット、短期アウトカム、事業と効果の因果関係や検証方法等を記載(事業費調書)

# 「**A**戦略目的」の調書

(様式3)

平成30年度政策レビュー調書

「めざす姿」(達成すべき目標)を記載

政策体系図の「**B**」  
「主要手段」に該当

アウトカム指標  
(測定指標)

A						
項目番号	取りまとめ局	関連局				
項目名	関連する施策 (PJ名)					
めざす姿 (達成すべき目標)	<長期的な展望(指標)> (任意)					
関連するSDGsのゴール						
測定指標(a)	基準値 (基準年度)	年度ごとの目標値			目標値水準 目標年度の設定の根拠	
		2019	2020	2021		
1						
2						
項目を構成する取組み(主要手段)				クロス有無	事業費(増額分)	
取組み1(B1)						
取組み2(B2)						
取組み3(B3)						

# 「㊀主要手段」の調書

(様式3)

B1

取組み1 (主要手段)						
取組みの ねらい		<長期的な展望(指標)>				
測定指標(ハ)	基準値 (基準年度)	年度ごとの目標値			目標値水準 目標年度の設定 の根拠	
		2019	2020	2021		
1						
2						
3						
現状と課題		<背景(取組みを行うに至った経緯)> <これまでの取組みの検証(成果と課題)、現在の状況(データ、社会環境の変化等)>				
課題解決に 向けた提案 (新たな手 段・既存の 手段の改善 等)		【提案1】  【提案2】				

政策体系図の「㊀  
主要手段」に該当

中間アウトカム。  
「主要手段」の効果を  
判断するための指標

新たな「主要手段」、  
または既存の「主要  
手段」の改善等、課  
題解決に向けた手  
段を提案

# 「㊀主要手段」の調書

できる限り科学的・客観的データに基づいて記載。  
有効性については、指標(b)の達成に有効であること(因果関係があること)を示す。ここがロジックモデルの最も重要な論点になる。

政策体系図の「㊀個別手段」に該当

上記指標の達成性	指標【1】 点 論点	<必要性>(ニーズの把握状況等) <有効性>(その手段が有効である理由、「ねらい」の実現や測定指標(b)にどのように寄与するか) <役割分担>(県が実施する必要性、国・市町村・民間・NPO などの連携や役割分担) <効果発現までの期間> ----- 【知事と特に議論したいポイント】				
	指標【2】 点 論点	<必要性>(ニーズの把握状況等) <有効性>(その手段が有効である理由、「ねらい」の実現や測定指標(b)にどのように寄与するか) <役割分担>(県が実施する必要性、国・市町村・民間・NPO などの連携や役割分担) <効果発現までの期間> ----- 【知事と特に議論したいポイント】				
細々事業を構成する個別手段(項目)		細々事業名	区分	細々事業の概要	クロス事業	関連する指標(b)
	①					
	②					
	③					
	④					
	⑤					

「㊀個別手段」がどの指標(b)の達成に寄与するのか記載

# 「◎個別手段」の調書

(様式4-2)

C		事業費調書						
項目番号		項目名						
取組み(主要手段)								
番号		細々事業名						
区分		歳出ID		性質別		要求区分		
所属名							(単位:千円)	
事業概要	(目的)							
区分	平成30年度(A)	平成31年度(B)	前年度当初比較(B-A)	後年度に多額の財政負担が想定される事業のみ記載				備考
				平成32年度	平成33年度	平成34年度	総事業費	
事業費総額								
財源内訳	国庫支出金							
	県債							
	その他							
	一般財源							
事業積算の内容	.							

政策体系図の「◎個別手段」に該当

# 「◎個別手段」の調書

(事業 アウト プツ 目 標)	当該予算事業(個別手段)の実施によって得ようとするアウトプット
(事業 短期 アウト カム 目 標)	当該予算事業(個別手段)の実施によって得ようとする短期アウトカム
事業 と成 果 の 因 果 関 係	事業の実施結果(アウトプット)がなぜ(どのように)短期アウトカムの達成に寄与するのか、因果関係を示す
検 証 方 法	短期アウトカムを把握するための手法(調査方法等)



## その他の取組み

- 政策レビューにおけるプレゼンテーション資料で、ロジック・モデルを図式化して示し、上位目的に対する施策・事業の有効性等を論点として設定
- はじめて政策レビューにEBPMの考え方を導入したことから、効果的な実施が図られるよう、調書作成等について、各局の担当者を対象とした研修の実施

# 今後の課題

- EBPMの考え方の導入が緒に就いたばかりということもあり、因果関係や有効性について科学的かつ客観的なエビデンスが十分示されたとは言い難かった
- エビデンスをこれから積み上げていくためには、まずは政策体系のロジック・モデルを明確にしていくことが重要である。
- 施策全体の評価となる総合計画の評価等とも連動しながらEBPMを念頭においた取組みを継続していく必要である。
- 必要なデータの収集、事業効果の測定等、さらなる課題もある。

御清聴ありがとうございました。